

復興特需後の売り上げ減少を見越して 新地域特産品で競争力の高い商品開発

課題

被災を乗り越えて 新たな事業計画を具体化へ

1926年（昭和元年）の創業で、陸前高田市で半世紀以上にわたって地域密着の菓子店として営業を続けてきた「御菓子司 木村屋」。3代目の現経営者は、雁月やゆべしなどの伝統菓子を守りつつ洋焼菓子、パン、ケーキほかを商品ラインナップに加えるなど積極的に新分野に進出。2002年には道の駅に第2店舗を出店し、インターネット販売の開始に向けての準備を始めた矢先の2011年、東日本大震災に被災し、2店舗とも失うこととなった。

それでも地域や関係各所の協力を得て、翌2012年5月には仮設店舗での営業再開にこぎつけた。2015年4月には市役所近くに本設店舗の再建を果たし、「おかし工房木村屋」としてリニューアルオープンした。

現在は、小売りのほかに地元スーパー、ホテル、結婚式場などとの取引も開始。復興関係者の来店も多いため土産物の売り上げが順調だが、いずれ復興需要が終われば売り上げは減少に転じる。それを見越して特別感や独自性、地域性を兼ね備えた競争力の高い新商品を開発する必要があると考えていた経営者が目を付けたのが、ナッツの一種、ピーカンナッツだった。陸前高田市では、災害復興の一環として、地域の農業再生と地方創生を目指す産学官連携プロジェクトに取り組んでいる。収益性が高くアンチエイジング効果のあるスーパーフードとして注目されているピーカンナッツの国内での生産、流通を拡大しようというもので、この事業に参画する大手洋菓子会社と連携し、新たな和菓子商品の開発に取り組むことを決めた。

支援

地域の農業再生を担う 新商品開発に挑む

方向性は明確に定まっていたため、相談を受けて支援にあたった陸前高田商工会では、まず構想の実現に向けて専門家を交えて分析を行った。

ピーカンナッツの市場競争力については、ピーカンナッツの知名度が上がって大手コンビニチェーンでも参入を始めていること、アメリカでの健康食品としての普及状況、商品レベルと生産量の安定化にともなうリスク、販売先の見通し、潜在的ニーズなどの分析、障がい者雇用を含めた雇用計画の



岩手県発祥の菓子「雁月」でも、ピーカンナッツ入りの商品を開発

数値化などを行い、予算設計、生産体制の構築プラン作成と進めて、構想の具現化をサポート。経営革新計画の承認と、ものづくり補助金の採択につなげていった。

陸前高田市では、数万本のピーカンナッツの栽培を始める計画で、市産のピーカンナッツが収穫できるようになる数年後までは輸入品を使いながら陸前高田市の誇る特産品として育てていくというのが、木村屋の掲げる構想だ。

今後は近隣の加工会社との連携や、提携関係にある大手洋菓子会社の販売チャネルの活用などを進め、海外進出も視野に入れた展開に狙いを定めている。

支援の経過

期間	支援内容
2018年5月～7月	事業計画の策定支援
8月	経営革新計画の策定支援
8月～9月	ものづくり補助金の申請・実行支援
2019年5月～	ファクリーショップ入居に向けた検討

会社概要

会社名：御菓子司 木村屋
住所：岩手県陸前高田市字栃ヶ沢220-1
電話番号：0192-55-2825
URL：<http://okashitsukasa-kimuraya.com/>
代表者名：代表 木村昌之
創業年：1926年
従業員数：9名
商工会名・担当者名：陸前高田商工会・末峰肇